

特別編

高校生記者が行く!



18ページはインターンシップとして広報課で働いた東濃実業高等学校の4人が撮影・原稿作成・編集を担当しました。



あつあつの鍋に「幸せ～」

大きな幸せをはこぶ鍋

1月20日に、ふるさと川公園で“巨大鍋とかまくら”を初開催。鍋の直径は7mと日本一の大きさ！可児の食材を使った七草粥、里芋とん汁などの8000食分が無料で振る舞われました。また、高山市から運んだ雪のかまくらも登場し、約2,000人の人でにぎわいました。

チラシを見て来場した加藤さん一家。長女の琴ちゃん「おいしい！色々な味があって楽しい」と満面の笑みで話してくれました。

子どもにピッタリのハンドメイド

子育て健康プラザ・マーノでは毎月第3または第4火曜日に「ツキイチマルシェ」が開かれています。子ども服やガーゼのマスク、小物雑貨など手作りの可愛いらしい品がずらり。また、小学校のジャージにちょうど入る大きさのハンカチなど、子どもの要望に合ったものも多く並びます。

今回は3月19日（火）に行われます。ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。出店者も募集中です。

※問い合わせは市民支援室（マーノ内）☎8303まで。



マルシェの様子(1月22日)



90人受講と満員の講演会

大河ドラマで商機をつかめ!

2020年放送「麒麟がくる」で来客が見込まれることから、1月29日に飲食や土産物などの事業者への説明会を行いました。関ヶ原町では石田三成に関連した包装にして売り上げが伸びた、「半分、青い。」ロケ地の恵那市ではGWに観光客がどっと押し寄せ土産物の在庫が不足したなどの事例を講師が紹介。「他人事かなと思いつつも、話を聞いたら自分にもチャンスがあるんだな」と商機に気持ちを高ぶらせる経営者もいました。

可児の食材いっぱい

今渡北小学校で1月30日、ふれあい給食を開催しました。地元の食材を使用した給食や生産者との交流を通じて子どもたちに食の大切さを伝えようと、平成23年から毎年市内小学校で行っています。

今回の「可児っ子献立」の中でも、広報かに2月号特集にも登場した「可児のみそ汁」は大人気。地元農家や地域の皆さん、友人とおしゃべりしながら、普段とは一味違った給食を楽しみました。



富田市長と給食を楽しむ児童たち



よく見るとすごく似た顔の子が!?

笑顔の絶えない教室

2月6日に、ぎふ多胎ネット主催の双子・三つ子を持つお母さん向けの子育て教室が子育て健康プラザ・マーノで行われました。

教室では、子どもたちが歌に合わせて体を動かして遊んだり、お母さんたちは双子の家庭ならではの「外出」やこれから迎える「いやいや期」などについて、話し合ったりしていました。遊ぶ子どもたちやそれを見守るお母さんたちの笑顔や笑い声の絶えない教室でした。(相馬)

可児を知ろう

2月6日に、福祉センターで「可児市のじまんとほこり」を題材にした市長講話が開催されました。講師の富田市長は、可児の歴史や「良い新たな命が生まれ育つまち」という地名に込められた願い、良い地域づくりについて話しました。特に古くからの歴史を熱く語り、参加した人たちは、うなずいたりメモを取ったりしながら真剣に聞いていました。(丸山・倉知)



熱弁する富田市長



打ち合わせ中の司会者(左)と職員

いきいきマイタウンの裏側

2月7日に、ケーブルテレビ可児の「いきいきマイタウン」の収録を行いました。今回の特集は“地産地消の給食”。可児市で採れた大豆で造られたみそが紹介されました。

番組の内容を少しでも分かりやすく伝えるために司会者とケーブルテレビ職員、広報課職員が番組内容を話し合いながら収録をしました。(村田)

編集後記

可児市を知る良い機会になったし、とても楽しかったです。

くらちまき (倉知舞紀)



取材したら自分まで元気が出る教室でした。こういった教室がどんどん増えていくと良いなと思いました。

そうまゆうき (相馬佑基)



可児市の事がたくさん学べて市長さんの講話も面白くて楽しかったです。

まるやまこみ (丸山琴己)



収録を見学させてもらって1つの番組を作るのにもたくさんの人が協力してできているんだと思いました。

むらたりのへい (村田凌平)

